

氏名 <small>(法人にあっては名称)</small>	株式会社やまひろ
住所	広島市西区商工センター1丁目11-21
計画期間	平成31年4月1日～令和4年3月31日
基準年度(*1)	平成28年度～平成30年度(平均)

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上(特定事業者) <input checked="" type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上(特定事業者) <input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者
------------	--

2 事業の概要

事業者の業種	乳製品製造業(処理牛乳 乳飲料を除く) (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号: 0914)
事業の概要	アイスクリーム製造業

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する推進体制

エネルギー管理統括者、エネルギー企画推進者、エネルギー監理員、エネルギー削減コンサルタントを主体としたエネルギー管理組織
--

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	平成28～平成30年度(平均値)	令和元～令和3年度(平均値)	$((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量)
温室効果ガス実排出量(*5)	6,030 t-CO ₂	5,900 t-CO ₂	2.2 %
温室効果ガスみなし排出量(*6)		5,900 t-CO ₂	2.2 %
目標設定の考え方	生産重量を基に原単位を算出、3年平均で2.2%削減を目標とする。		

- *1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。
- *2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。
- *3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。
- *4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六ふっ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。
- *5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。
- *6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標 (※任意記載)

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	平成28～平成30年度 (平均値)	令和元～令和3年度 (平均値)	$((a-b)/a) \times 100$
			%
			%
			%
原単位の指標及び 目標設定の考え方			

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の内容

可部工場
 ①稼働日数削と稼働日のライン数調整による、年間での動力機器の運転時間削減と効率の上昇を図る。
 ②動力インバーター制御による効率改善。
 ③ユーティリティー配管修繕による熱ロス削減。

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の内容 (環境価値(*8)の活用等)

特になし

(5) 温室効果ガスの排出の抑制等に関する基本方針

生産設備の更新による使用エネルギーの削減とともに生産効率の向上を図り、温室効果ガスの排出を抑制する。

5 その他の取組

特になし

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

*8 環境価値とは、オフセットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	株式会社やまひろ 可部工場
事業所の所在地	広島市安佐北区三入三丁目15-18
事業所の業種	乳製品製造業 (処理牛乳 乳飲料を除く)
事業の概要	アイスクリーム製造業

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	平成28～平成30年度 (平均値)	令和元～令和3年度 (平均値)	$((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量)
温室効果ガス 実排出量	4,974 t-CO ₂	4,876 t-CO ₂	2.0 %
温室効果ガス みなし排出量		4,876 t-CO ₂	2.0 %
目標設定の考え方	生産重量を基に原単位算出、3年平均で2.3%削減を目標とする。		

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の内容

<p>①年間における生産ライン稼働数の平均化と、ラインの短時間稼働回数の削減。 ②冷凍機の更新による省エネ化</p>
--

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の内容 (環境価値の活用等)

特になし

2 その他の取組

特になし
